

着付け職種技能検定 2級学科試験

平成29年6月13日（火）

一般社団法人全日本着付け技能センター

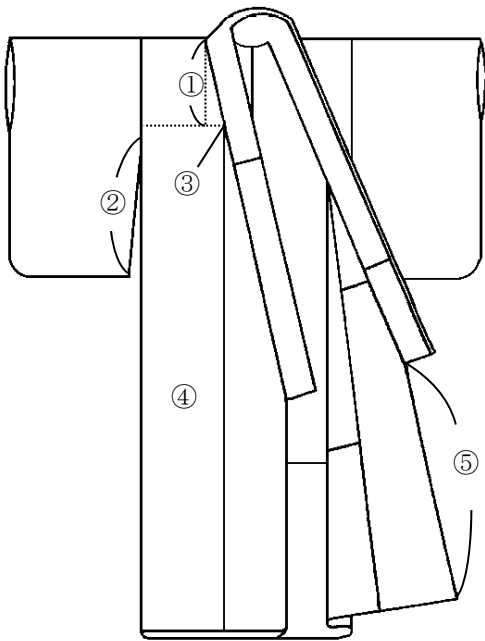
問題 1. 時代と服装の関係について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 貫頭衣 2. 名護屋帯 3. 友禅染

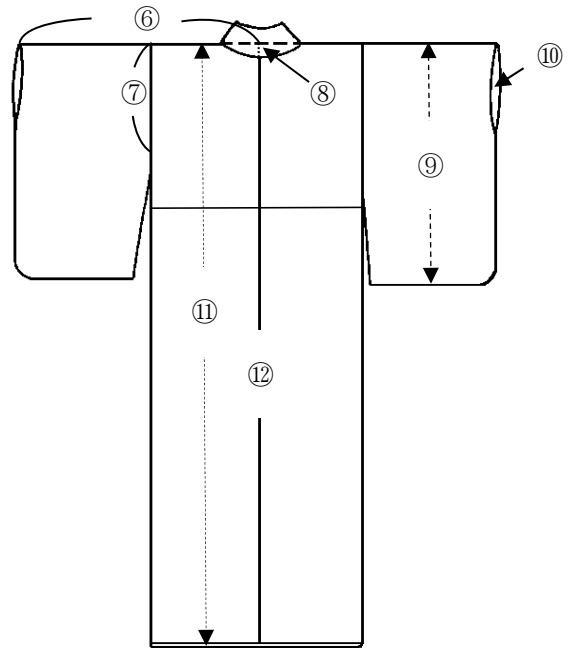
ア. 昭和時代 イ. 平安時代 ウ. 江戸時代 エ. 弥生時代 オ. 室町時代

問題 2. 次の着物の各部位の名称について、それぞれの語群の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

I. 女物袷(前)



II. 女物袷(後)



[語 群 I]

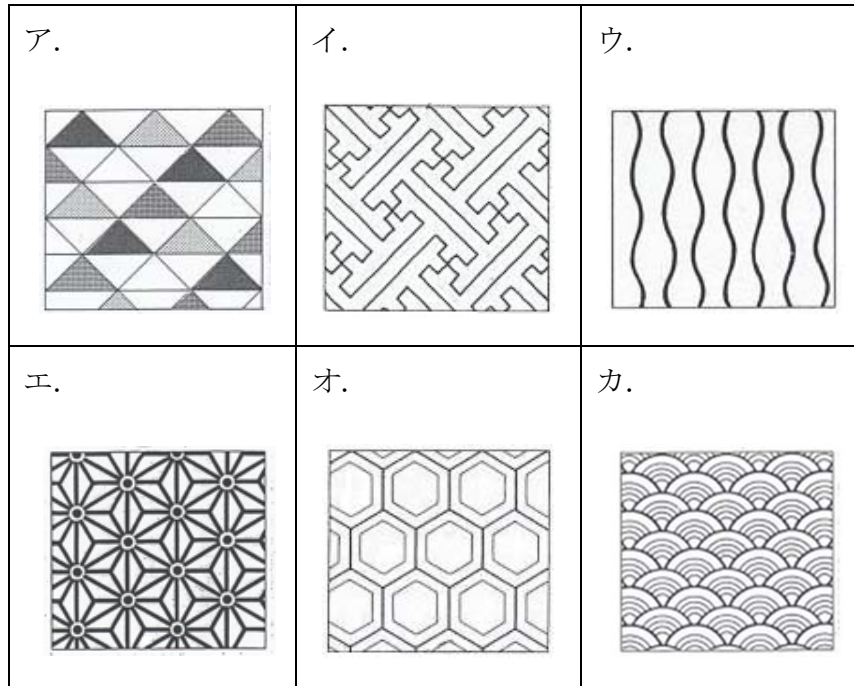
ア. 共衿 (掛衿) イ. 前身ごろ ウ. 衽
 エ. 身八つ口 オ. 抱幅 カ. 衿下 (棲下)
 キ. 剣先 ク. 衽下がり ケ. 振り

[語 群 II]

コ. 袖口 サ. 衿 シ. 背縫い
 ス. 袖丈 セ. 後身ごろ ソ. くり越し
 タ. 身丈 チ. 袖付 ツ. 脇縫い

問題3. 次の代表的な古典文様の名称について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

- | | | |
|--------|-------|--------|
| 1. 麻の葉 | 2. 立涌 | 3. 紗綾形 |
| 4. 青海波 | 5. 鱗 | 6. 亀甲 |

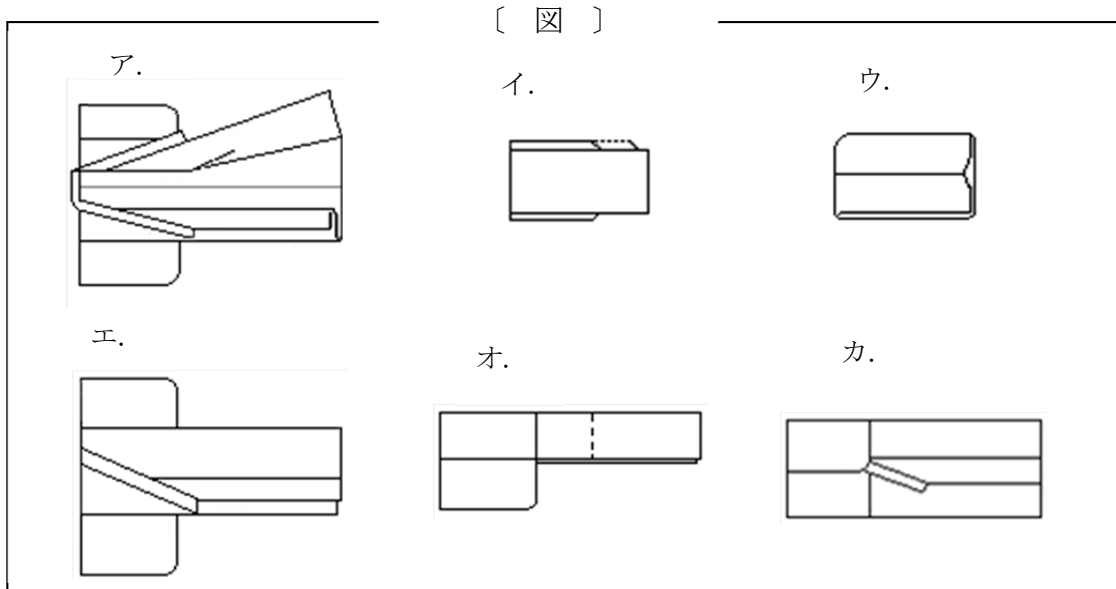


問題4. 下記の男物の着物の仕立てについて述べたものの中で、正しいものを3つ選び記号を記入しなさい。

- ア. 男物の着物の衿は、広衿である。
- イ. 男物の着物には人形があるが、振りが無い。
- ウ. 男物の着物はくり越しがなく、棒衿である。
- エ. 男物の着物には、身八つ口がない。
- オ. 男物の着物は身丈である。

問題5. 着物（本だたみ）のたたみ方について、下記の図の中から必要なものを選び、正しい順序に
なるように並べて、記号を記入しなさい。

(1) → (2) → (3) → (4)



問題6. 次の説明文についてあてはまるものを下記の中から1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 塩瀬

2. 縮緬

3. 紬

- ア. 羽二重地の厚い絹織物。布面によこ畝が現れるのが特徴。
- イ. からみ織りの一種で透けるように織り上げたもの。夏は喪服、長襦袢、半衿、帯揚げ、帯などに用いられる。
- ウ. たて糸に撚りのない生糸、よこ糸に撚りの強い生糸を用いて平織にしたのち、特殊な液体に入れて煮て精練して仕上げた絹織物。「しぼ」という凹凸がある。
- エ. 玉繭、真綿、くず繭などを使用して織った、平織の絹織物。

問題7. 次の染めの手法にあてはまるものを下記の中から2つずつ選び、記号で記入しなさい。

1. 先染め

2. 後染め

ア. 紹

イ. 紬

ウ. 紗

エ. 縮緬

問題 8. 着物の用途、格等に関する次の記述のうち、誤っているものを2つ選び、記号を記入しなさい。

- ア. 付下げとは、柄が肩山と袖山を境にして上向きになっているものをいう。
- イ. 留袖に合わせる帯は染名古屋帯でもよい。
- ウ. 付下げ訪問着とは、上前の胸に柄があり、前身ごろと衽の柄がつながっているものをいう。
- エ. 紬の訪問着は礼装になる。

問題 9. 次の紋に関する記述のうち正しいものを1つ選び、記号を記入しなさい。

- ア. 訪問着の紋は、染め抜き五つ紋の陽紋が一般的である。
- イ. 紬に五つ紋をつけると正式礼装になる。
- ウ. 紋服の紋は、染め抜き五つ紋の日向紋（陽紋）である。
- エ. 三つ紋は背紋1つと抱き紋2つである。

問題 10. 次の帯に適した着物を下記の中から選び、記号を記入しなさい。

- 1. 袋帯
- 2. 染名古屋帯
- 3. 角帯

ア. 結城紬	イ. 男物	ウ. 中振袖
--------	-------	--------

問題 11. 次の文章の空欄に最も適当なものを下記の中から 1 つずつ選び、その記号を記入しなさい。

1. (①) は絞り、無地などがあり、装飾的な意味合いが強い。
2. (②) は、比翼衿を略したもので、着物の衿の下にもう一枚重ねる衿のことをいう。
3. (③) は、塩瀬が一番格が高く、縮緬より上である。
4. 白の丸ぐけの (④) は礼装用として用いられる。

ア. 帯締め	イ. 伊達衿	ウ. 半衿
エ. 裾よけ	オ. 帯揚げ	カ. 帯板

問題 12. 次の着物と小物の合わせ方の組合せのうち、正しいものを 2 つ選び、記号を記入しなさい。

ア. 色留袖 (染め抜き五つ紋)	—————	帯揚げ (柄もの)
イ. 喪服	—————	草履 (黒のエナメル)
ウ. 男子紋服	—————	扇 (黒骨金銀末広)
エ. 黒留袖	—————	帯締め (白の丸ぐけ、白の組紐)
オ. 中振袖 (袷)	—————	たび (柄もの)
カ. 訪問着	—————	帯揚げ (色物)

問題 13. 次の着物の着用時季について、() にあてはまる最も適当なものを、下記の中から 1 つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 絹の訪問着は (①) に着用する。
2. 紬の袷の着物は (②) に着用する。
3. 小紋の単の着物は (③) に着用する。

ア. 8月のみ	イ. 10月から5月	ウ. 6月と9月
エ. 7月と8月	オ. 9月から3月	カ. 5月から10月

問題 14. 着物の着付けをするときの心得として、誤っているものを2つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 着付けを始める前には必ず、お客様にご挨拶する。
- イ. どのような場所であっても、大切な着物や帯を汚さないように必ず敷物を敷く。
- ウ. 正装は公の席で着るもので、相手に失礼にならないよう格式を重んじ、約束ごとを守らねばならない。
- エ. 着付けをするさいのクリップや小物は、着物を傷めないためにも、代用品ではなく、着付用を使用する。
- オ. お客様をお待たせしないために、お化粧をした後でも、手を洗わずにすぐに着付けに取り掛かる。
- カ. ひも類は、首や肩にかけて作業をしない。
- キ. 身なりは特に注意する必要はなく、常におしゃれを心掛ければよい。

問題 15. 次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 美容師でなければ、花嫁の結髪・化粧を業として行えない。
- イ. パーマネントウェーブ・結髪・化粧等の方法により容姿を美しくすることは、美容師でなければ業として行うことができない。
- ウ. 有料で着物を着付ける場合は、美容師免許がなければ行えない。
- エ. 美容師免許を取得すれば、全国どの都道府県でも美容を業として行うことができる。

全日本着付け技能センター

2級学科試験【模範解答】

平成 年 月 日()

受験番号	—
------	---

氏名	
----	--

問題1 (各2点)

1 エ	2 オ	3 ウ
-----	-----	-----

問題2 (各2点)

1 ク	2 ケ	3 キ	4 イ	5 カ	6 サ
7 チ	8 ソ	9 ス	10 コ	11 タ	12 シ

問題3 (各1点)

1 エ	2 ウ	3 イ	4 カ	5 ア	6 オ
-----	-----	-----	-----	-----	-----

問題4 (各2点)

イ	ウ	エ
---	---	---

※順不同

問題5 (各2点)

1 ア	2 エ	3 オ	4 イ
-----	-----	-----	-----

問題6 (各2点)

1 ア	2 ウ	3 エ
-----	-----	-----

問題7 (各2点)

1	イ	ウ	2	ア	エ
---	---	---	---	---	---

※1、2順不同

問題8 (各2点)

イ	エ
---	---

※順不同

問題9 (2点)

ウ

問題10 (各2点)

1 ウ	2 ア	3 イ
-----	-----	-----

問題11 (各2点)

1 オ	2 イ	3 ウ	4 ア
-----	-----	-----	-----

問題12 (各2点)

エ	カ
---	---

※順不同

問題13 (各2点)

1 エ	2 イ	3 ウ
-----	-----	-----

問題14 (各2点)

オ	キ
---	---

※順不同

問題15

ウ
